

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：34315

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13152

研究課題名（和文）中世ヴァルド派の教理に関する文献学的研究 写本の解読と翻訳

研究課題名（英文）Philological Research about the doctrine of Medieval Waldenses : Analysis and Translation of their Manuscripts

研究代表者

有田 豊 (ARITA, Yutaka)

立命館大学・政策科学部・准教授

研究者番号：30771943

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：ヨーロッパの図書館に保管されている中世ヴァルド派写本を調査し、8本の教理詩が掲載されている箇所を画像データ化して入手した。8本の教理詩全てを解読し、日本語に翻訳した上で、そのうち2本を公開した。そして、教理詩の内容分析を行った結果、各作品を通底する神学上のテーマとして「悔悛の奨励」が挙げられ、中世ヴァルド派内部では詩を通じて信者全員が罪の悔悛を実施できる体制が整えられていた可能性が浮かび上がった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本国内には中世ヴァルド派写本の文献学的研究が行われた例はなく、本研究による教理詩の解読・分析や日本語翻訳は、全て本邦初の成果である。中世ヴァルド派の文書は彼らの信条や精神的価値観を理解する上で貴重な史料ながら、中世の言語で書かれていて可読者が少ないため、詳細な分析と翻訳は教会史や聖書研究に重要な貢献をなすものである。また、本研究が8本の教理詩を包括的に分析した点は、世界的に見ても稀有な取り組みであり、「詩」を通じて中世ヴァルド派の教理を解き明かそうとする試みは、ヴァルド派ひいてはキリスト教研究全体の発展に寄与するものである。これらの点に本研究成果の学術的意義や社会的意義があるといえよう。

研究成果の概要（英文）：I investigated the medieval Waldensian manuscripts preserved in several European libraries and obtained image data of the sections containing the eight doctrinal poems. I read all eight poems and translated them into Japanese, with two of them published. The content analysis of these poems revealed that a recurring theological theme of "encouragement of repentance" runs through each poem, suggesting that within the medieval Waldensian community, there might have been a system allowing all believers to perform repentance for their sins through these poems equally.

研究分野：中世ヨーロッパ文献学

キーワード：ヴァルド派 キリスト教 教理書 中世写本 ロマンズ語文献学

## 1. 研究開始当初の背景

申請者の研究対象である「ヴァルド派」(仏: Les Vaudois、伊: I Valdesi、独: Die Waldenser、英: The Waldenses、羅: Valdenses, Waldenses)とは、1173年頃、現在のフランスに早くからひらけた都市リヨンにおいてヴァルドなる商人によって創設されたキリスト教の一派を指す。1215年、教会権威を蔑ろにした罪でカトリック教会から破門された彼らは、以後「異端者」として迫害されるようになる。しかし、1532年に宗教改革運動に参加、スイスの改革派教会と教理的に合同してプロテスタントの一派となり、現在ではイタリア国内を中心に、フランス、スイス、ドイツ、南北アメリカ等に教会および信者コミュニティを有する福音主義プロテスタントの中核的組織となっている。

ヴァルド派は、プロテスタンティズムを彩る最古の宗派であり、「宗教改革の母」と評されるほど、16世紀の改革運動においてはプロテスタント諸宗派の大きな精神的支柱となった。かくも重要な宗派ゆえに、宗教改革参加前の原プロテスタントとしてのヴァルド派がいかなる教理を持つ集団であったか、今日に至るまで検討されてきている。12～15世紀の所謂「中世ヴァルド派」の宗教思想に関する研究では、これまでヴァルド派側で作成された文書が用いられることはほとんどなく、主にカトリック教会側で作成された文書が一次史料として用いられてきた傾向がある。その原因としては、ヴァルド派文書の大部分が写本のまま校訂されていないこと、同文書の多くが古オック語のアルプス方言で記されていて可読者が少ないことが挙げられる。**先行研究における問題点は、過去に明らかにされてきた中世ヴァルド派の思想は主にカトリック教会文書を用いた研究に基づくものであり、ヴァルド派文書による裏付けがほとんどなされてきていないことにある。**よって、この問題を解決するには、カトリック教会文書のみならずヴァルド派文書をも併行して使用し、両方の視点をもって多面的にヴァルド派思想を検討する必要がある。

研究課題の核心をなす学術的「問い」として「ヴァルド派とは、いかなる思想を持つ集団として定義できるのか」がある。改革派教会と教理的合同を果たした16世紀以降のヴァルド派は、教理の上では改革派教会と変わりが無い集団とされる。しかし、教理的合同を果たす以前の中世ヴァルド派には、改革派教会のものとは異なる「ヴァルド派の教理」が独自に存在していたはずである。この教理こそ、自らの源流をヴァルド派に見出したプロテスタント諸宗派にとって重要なのであるが、現在までに判明している中世の段階におけるヴァルド派の教理は、カトリック教会文書の解読を通して明らかにされたものが大部分である。そのため、カトリック教会文書に加えてヴァルド派文書の内容を解読することは、彼らの教理を今後より精緻化し、宗教改革参加前のヴァルド派ひいては原プロテスタントと評される人々の思想の実態をさらに解明できる可能性を大いに秘めているのである。

## 2. 研究の目的

本研究では、**現存する中世ヴァルド派文書約180編のうち、彼らの教理が記されているとされる以下の「8本の教理詩」を解読し、詩を通して表出される中世ヴァルド派の教理の解明**を目的とする。

	作品名	原題	行数
1	『崇高なる読誦』	<i>La Nobla Leyczon</i>	485～492行
2	『舟』	<i>La Barca</i>	331～337行
3	『4つの種の福音』	<i>L'Avangeli de li quatre semencz</i>	300行
4	『祈祷』	<i>Oraczon</i>	94行
5	『現世の蔑視』	<i>Lo Desprezzi del Mont</i>	115行
6	『永遠なる父』	<i>Lo Payre Eternal</i>	156～158行
7	『新たなる救慰』	<i>Lo Novel Confort</i>	299～300行
8	『新たなる説教』	<i>Lo Novel Sermon</i>	408～444行

本研究は、これまでカトリック教会側の視点を基に積み上げられてきた中世ヴァルド派の教理に関する研究成果に加え、未だ分析の進んでいないヴァルド派文書を新たに解読することで彼らの思想や精神世界に光を当て、萌芽的段階にあるプロテスタント思想がどのようなものだったかを解明する点に特色を持つ。ヴァルド派文書のような、カトリック教会から放逐された「異端者」と呼ばれる人々の手による史料に着目した分析は過去に例が少なく、キリスト教や西洋中世世界について教会外部の視点からの再評価を可能にする点において独創性の高い試みである。ヴァルド派が残した約180編の文献は中世当時に「異端者」とされた人々が残した史料の数としては異例の多さであり、これらの文献学的調査はカトリック教会ひいてはキリスト教研究の分野全体の発展にも大きく寄与する可能性を秘めているといえよう。

### 3. 研究の方法

本研究では、プロテスタントの先駆けとされるヴァルド派が記した中世期の 8 本の教理詩の分析を通して、当時の彼らがいかなる教理を有していたのかを明らかにすることを旨とした。研究期間は計 5 年で、その間に以下の 3 つの段階を踏まえて研究に取り組んだ。

#### (1) 8 本の教理詩の解説 [2019-2021 年度]

複数の校訂版を比較検討する形で、8 本の教理詩の解説を行った。また、解説時には古オック語で書かれた教理詩の原文を、逐次日本語に翻訳し、原文と翻訳の対訳原稿を作成した。また、教理詩内で使用される古オック語の語彙および動詞活用をまとめたデータベースを作成した。

#### (2) 8 本の教理詩の写本調査 [2022 年度]

ヨーロッパ現地に赴き、教理詩が含まれる写本の調査を行った。8 本の教理詩が含まれる写本は計 3 本が現存しており、それぞれケンブリッジ大学図書館（イングランド）、ジュネーヴ公共・大学図書館（スイス）、トリニティ・カレッジ図書館（アイルランド）に保管されている。このうち、ダブリンの写本は過去に調査経験があったため、本研究ではケンブリッジならびにジュネーヴの写本を調査した。両図書館を訪問し、目的の写本を直接確認できたほか、現地司書の方々の協力を得て必要な写本の画像データ化を行うに至った。

#### (3) 教理詩の解説結果に基づく中世ヴァルド派思想の解明 [2022-2023 年度]

(1) で解説した教理詩の内容分析を行い、各作品から読み取れる中世ヴァルド派の教理を明らかにすることを旨とした。分析の結果は日本フランス語フランス文学会、日本西洋史学会、西洋中世学会で発表したほか、論文の形にまとめた。

### 4. 研究成果

#### (1) 研究の主な成果

中世ヴァルド派思想の体系化を目指す本研究の主な成果としては、**最終的に論文 3 本、学会発表 3 本、翻訳 2 本**を世に出すことができた。

まず、研究期間内にヨーロッパの各地に点在する中世ヴァルド派写本を現地調査できたほか、ケンブリッジとジュネーヴの写本に含まれる必要箇所を画像データ化して入手することに成功した。そして、分析対象としていた 8 本の教理詩全てを解説した上で、日本語に翻訳し、そのうち『崇高なる読誦』と『舟』の計 2 本の翻訳を公開するに至った。

教理に関する分析としては、『崇高なる読誦』を下地に、中世ヴァルド派の教理について、当該文書から読み取れるものとカトリック教会の異端反駁文書『反異端ヴァルド派の書』*Liber contra Waldenses haereticos* および『小作品』*Opusculum* から読み取れるものを比較し、実際にヴァルド派が有していた教理はいかなるものだったのかを解明した成果を論文の形で発表した。『崇高なる読誦』については、同時に中世ヴァルド派の聖書解釈に関する問題についても論文を発表している。そして、8 本の教理詩全ての解説と分析を行った結果、教理詩間の共通テーマとして「悔悛の奨励」が含まれていることが判明し、中世ヴァルド派内部では詩を通して一般信者全員が生前に行った罪の悔悛を等しく実施できる体制が整えられていた可能性が浮かび上がってきた。よって、各教理詩には「現世で行うべきこと」と「現世で行うべきではないこと」がそれぞれ記されており、これらを遵守することが現世におけるヴァルド派信者としての模範的な生き方であり、当時の彼らの教理であると考えることができよう。

#### (2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

日本国内において、中世ヴァルド派写本の文献学的研究が行われた例は皆無である。そのため、**中世ヴァルド派の教理詩を解説・分析し、論文や日本語翻訳として公開した成果は、全て本邦初のもの**となる。中世末期にヴァルド派が作成した各種文書は、彼ら自身の信条や精神的価値観を解明する上で極めて貴重な史料ながら、中世の言語（特に、古オック語）で記されているために可読者が少なく、その内容の把握には一定の困難が伴う。したがって、このような文献の詳細な分析と翻訳を世に出すことは、教会史や聖書研究において、非常に重要な貢献をなすものと位置付けられる。また、中世ヴァルド派における聖書解釈やカトリック教会との思想的相違についての理解を深めることにも役立つに違いない。

日本国外においては、近年イタリアで、同種の研究が行われている。具体的には、トリノ大学の研究チームがヴァルド派福音教会の支援を受けて写本解説プロジェクトを進めており、当該プロジェクトにおいては「説教」に焦点を当てた解説と翻訳が進行中である。「詩」については個別の研究者によって研究されていた過去があり、19 世紀後半に校訂版が編纂され始め、20 世紀以降には内容が詳細に分析されるようになった。特に『崇高なる読誦』は、ヴァルド派の起源や教理を理解するための重要な史料として注目されてきたが、他の 7 本の教理詩に関しては比較的研究が少なく、詳細な内容分析がほとんど行われてこなかった。そのため、**本研究が 8 本の**

教理詩を包括的に分析した点は、世界的に見ても稀有な取り組みとして位置付けられ、「詩」を通して中世ヴァルド派の教理を解き明かそうとする試みは、ヴァルド派ひいてはキリスト教研究全体の発展に寄与するものといえる。

### (3) 今後の展望

本研究における今後の展望は、大きく2つに分類される。それは「6本の教理詩の日本語翻訳公開」と「『崇高なる読誦』以外の教理詩に関する詳細な分析」である。

本研究では、8本の教理詩の解説と分析を進め、そのうち日本語に翻訳できたものから一般に公表していくことを計画していた。研究期間全体を通して8本の教理詩全てを解説し、日本語翻訳を付すことはできたものの、実質的に公開できたのは2本のみであった。残りの6本については詳細な分析が完了せず、公開できる仕上がりには至らなかったため、今後も引き続き、公開に向けた準備を進めていく予定である。また8本全ての教理詩の翻訳が公開できるようになった時点で、1冊の書籍にまとめて出版することも検討している。

今回の研究期間内に、詳細な分析ができた作品は一部の作品のみであった。そのため、中世ヴァルド派の教理の体系化は未だ達成されておらず、「悔悛の奨励」という8本の教理詩間における共通テーマの発見に留まる結果となった。教理の体系化を実現するには、各作品の詳細な分析が不可欠である。『崇高なる読誦』については、多少なりとも掘り下げた分析を行うことができたので、今後は他の詩に関しても同様の水準で分析を行い、本研究の成果をさらに緻密なものへと昇華していくことが肝要である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 有田 豊	4. 巻 31巻1号
2. 論文標題 翻訳 中世ヴァルド派詩編『崇高なる読誦』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『立命館言語文化研究』	6. 最初と最後の頁 pp.251-270
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34382/00003202	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 有田 豊	4. 巻 34巻1号
2. 論文標題 翻訳 中世ヴァルド派詩編『舟』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『立命館言語文化研究』	6. 最初と最後の頁 pp.175-195
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34382/00017794	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yutaka ARITA	4. 巻 -
2. 論文標題 Le Valdeisme et l'auto-comprehension des croyants vaudois dans la Nobla Leicon	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Alterite et deviance religieuse. Regards sur l'heresie entre Europe et Extreme-Orient	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有田 豊	4. 巻 125号
2. 論文標題 中世期のヴァルド派における聖書理解 教理詩『崇高なる読誦』を例に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『フランス語フランス文学研究』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 有田 豊	4. 巻 36巻1号
2. 論文標題 8本の詩にみる中世ヴァルド派の教理 「悔悛の奨励」を中心に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『立命館言語文化研究』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 有田 豊
2. 発表標題 「異端」の眼から見た「正統」の姿 中世ヴァルド派詩編におけるカトリック教会のイメージ
3. 学会等名 西洋中世学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 有田 豊
2. 発表標題 詩編にみる中世ヴァルド派の教理 写本の分析と翻訳
3. 学会等名 西洋中世学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 有田 豊
2. 発表標題 中世期のヴァルド派における聖書理解 教理詩『崇高なる読誦』を例に
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ヴァルド派研究会 <a href="https://valdesegiappone.org/">https://valdesegiappone.org/</a></p> <p>ヴァルド派研究会 - 史料翻訳活動 <a href="https://valdesegiappone.org/free/documenti">https://valdesegiappone.org/free/documenti</a></p> <p>「異端」とされた宗派の言葉を読み解き、知られざる思想に迫る <a href="http://www.ritsumei.ac.jp/research/radiant/language/story2.html/">http://www.ritsumei.ac.jp/research/radiant/language/story2.html/</a></p> <p>Deciphering the Words of a Heretic Group <a href="http://www.ritsumei.ac.jp/research/radiant/eng/language/story4.html/">http://www.ritsumei.ac.jp/research/radiant/eng/language/story4.html/</a></p> <p>Yutaka e gli altri: i turisti stranieri parlano di noi <a href="https://loradelpellice.it/yutaka-e-gli-altri-i-turisti-stranieri-parlano-di-noi/">https://loradelpellice.it/yutaka-e-gli-altri-i-turisti-stranieri-parlano-di-noi/</a></p> <p>Un giapponese con la passione per i valdesi : Yutaka Arita, un docente di Kyoto, studia il protestantesimo e in particolare la storia dei valdesi da anni <a href="https://www.nev.it/nev/2024/01/15/un-giapponese-con-la-passione-per-i-valdesi/">https://www.nev.it/nev/2024/01/15/un-giapponese-con-la-passione-per-i-valdesi/</a></p>
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------